

教育と保育のための 発達診断セミナー

2025 年 11 月 30 日（日） 13:00～16:40

オンライン ライブ（見逃し配信あり）

本セミナーは、2009 年から全国各地で開催し、好評を得てきました。現在は年 2 回、全国どこからでも受講できるオンラインセミナーとして開催しています。「発達について学びたい」「障害があるってどういうこと？」「よりよい実践をつくりたい」など、保育・療育、教育、福祉に携わるあなたの切実な声に応えます。

プログラム



（1）乳幼児期の療育と発達

乳幼児期の療育（児童発達支援）において、子どもの発達理解の大切さを事例を通して考えたいと思います。行動の奥にある子どもの発達への願いを職員や親が共通して理解していくなかで、子どもは周りの大人への信頼感を確かなものにしていきます。（テキスト上巻Ⅴ-1 章）

高橋真保子さん（社会福祉法人コスモス 発達相談員）



（2）遊びと発達～ライフステージを一貫する遊びの発達の意義

子ども時代に「われを忘れて」楽しいことやおもしろいことに熱中する遊び経験に満ちていることは、その後の人生も豊かに支えていきます。「忘れられた権利」と言われてきた「遊ぶ権利」をすべての子どもに保障する手だてや条件について研究と実践から学んできたことをお話しします。

（テキスト上巻Ⅱ、Ⅲ-2～4 章、下巻Ⅱ-6 章）

服部敬子さん（京都府立大学）



（3）学童期の発達と実践

学童期には保護者のいる家庭、先生のいる学校とともに、子ども同士でつくる「第 3 の世界」が大切になります。ゆたかな学校教育とともに、子ども同士で遊ぶことを権利として保障したいものです。放課後の生活にも目を向けつつ、発達の子ども理解について、実践をもとに深めていきます。

（テキスト上巻Ⅱ、Ⅲ-4 章、Ⅴ-2 章）

川地亜弥子さん（神戸大学）

こんなセミナーです～前回セミナー参加者の感想から～

●乳児期後期の発達について、具体的に説明をしてくださいました。自分が今関わっている障害者の発達の様子と重ね合わせ、どんな声かけが必要かを考えながら聞いていました。

●思いを言語化し、思いをわかって代弁してもらい、どう表現していくかに気づく、相手の気持ちにも気づいていく。内面の育ちの大切さを感じました。

●1 歳半の発達の特徴が「…ではない～だ」という気づきにあることが理解できました。気づいていくプロセスを大切にしていくことを積み木の課題やはめ板の課題を通して理解できました。

参加費

一般	●5,000 円
全障研会員	●3,000 円
学生・障害者	●2,000 円

参加申し込みは 9 月 1 日（月）から

QR コードまたは URL からアクセス
<https://form.run/@20251130>



共催 NPO 法人 発達保障研究センター／全国障害者問題研究会

問合先 NPO 法人 発達保障研究センター TEL 080-4332-2601 土日休日除く 9 時～17 時

メール s2025@nginet.or.jp ウェブサイト www.nginet.or.jp

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 4-7 新宿山吹町ビル 5F 全国障害者問題研究会 内

よびかけ

テキスト編者 白石正久 龍谷大学名誉教授
白石恵理子 滋賀大学名誉教授



発達の理解は、「何でなんだろう」「どうしたらいいんだろう」という子ども、なかま、そして自分自身への「問い」に、大切なヒントを与えてくれます。独りで答えを探せないときには、同僚と「問い」を共有しながら学びあい、語りあってみましょう。

今回のセミナーは、「発達段階別」の解説ではなく、それぞれのライフステージにおいて、保育・療育、教育、生活・労働の支援に発達診断の視点をどう生かすかをテーマとしました。

ぜひ、職場や地域の働く仲間を誘ってご参加ください。初めて参加される方には新鮮な学びの喜びが、繰り返し参加されている方には、自分自身の変化への喜びが、きっと感じられることでしょう。

本セミナーのテキスト

受講時、お手元にご用意ください。

『新版 教育と保育のための発達診断』

白石正久・白石恵理子 編

上下巻とも定価 2,750 円

- 目の前の子どもの姿に学びつつ幾度も繰り返しテキストをたどることを願って編まれています。今回は上巻の内容を中心に学びます。

上巻

発達診断の基礎理論

- 子ども・障害のある人たちの権利と発達保障
- 発達理論と教育・保育の実践
- 発達の質的転換期とはなにか——その発見と実践研究
- 障害と発達診断
- ライフサイクルと発達診断の役割



下巻 発達診断の視点と方法

- 発達保障のための子ども理解の方法
- 発達の段階と発達診断
- 「発達の障害」と発達診断

あわせて読みたい



目の前の子どもや障害のある人びとがみせる、瞳の光や指先の動き、言葉にならない声の一つひとつに、大切な意味、煌めきがあります。それを「明確なエビデンス」ではないと排除する

「科学」観にいつの間にかのみ込まれてはいないでしょうか。

発達は、他者と手をつなぎあうことを知り、そのつながりや集団を通じて、みんなが幸福になれる社会を創っていく過程でもあります。

『発達のなかの煌めき』
上 子ども・障害のある
人びとの発達

白石正久・白石恵理子

定価 2,200 円
全障研出版部

本著下巻は
2026 年夏
発売予定

テキスト購入は特販案内から

参加をお申し込みの方には後日、テキストや関連書籍を参加者限定価格でご購入できる『特別販売』フォームをご案内します。